

製品名: MYPT1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14355**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	115kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R12A
別名	PPP1R12A; MBS; MYPT1; Protein phosphatase 1 regulatory subunit 12A; Myosin phosphatase-targeting subunit 1; Myosin phosphatase target subunit 1; Protein phosphatase myosin-binding subunit
遺伝子 ID	4659.0
SwissProt ID	O14974
免疫原	抗血清はヒト MYPT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 621-670

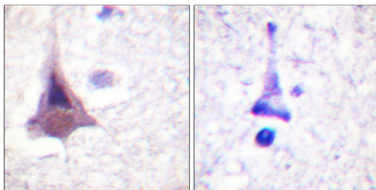
背景

ミオシンホスファターゼ標的サブユニット 1 は、ミオシンホスファターゼのミオシン結合サブユニットとも呼ばれ、ミオシンホスファターゼのサブユニットの 1 つです。ミオシンホスファターゼは、グアノシントリホスファターゼ Rho の下流におけるアクチンとミオシンの相互作用を制御します。小さなグアノシントリホスファターゼ Rho は、ミオシン軽鎖 (MLC) のリン酸化に関与しており、その結果、平滑筋の収縮と非筋細胞におけるアクチンとミオシンの相互作用が引き起こされます。グアノシン三リン酸 (GTP) 結合型の活性型 RhoA (GTP.RhoA) は、ミオシンホスファターゼのミオシン結合サブユニット (MBS) と特異的に相互作用し、MLC のリン酸化の程度を制御します。Rho 関連キナーゼ (Rho キナーゼ) は GTP によって活性化されます。RhoA はリン酸化 MBS を産生し、その結果ミオシンホスファターゼは不活性化されます。NIH 3T3 細胞における RhoA または活性化 RhoA の過剰発現は、リン酸化を増強しました。機能: ミオシンホスファターゼ活性を調節します。、PTM: CIT (Rho 関連キナーゼ) によってリン酸化されます (類似性による)。ROCK1 と CDC42BP によって Thr-696 が協調的にリン酸化されます。DNA 損傷 (おそらく ATM または ATR による) によりリン酸化されます。、配列注意: 汚染配列。ポリ A 配列の可能性あります。、類似性: 6 つの ANK リピートを含みます。、細胞内局在: アクチンミオシンフィラメントおよびストレスファイバー沿い。、サブユニット: PP1 は、触媒サブユニット (PPP1CA、PPP1CB、または PPP1CC) と、1 つまたは複数の標的サブユニットまたは調節サブユニットで構成されています。PPP1R12A はミオシンへの結合を媒介します。ARHA および CIT と相互作用する (類似性による)。PPP1R12B、ROCK1、IL16 に結合する。

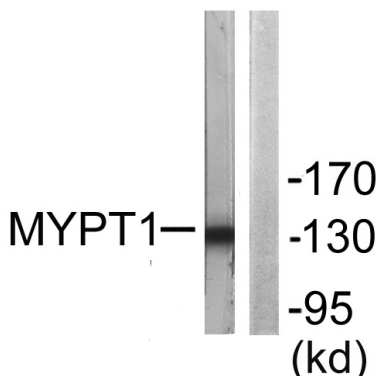
研究分野

血管平滑筋の収縮、焦点接着、長期増強、アクチンと細胞骨格の調節。

画像データ



MYPT1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



MYPT1 抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。